

精神保健福祉

みやぎ



44号

公益社団法人 宮城県精神保健福祉協会

特定非営利活動法人Switchの就労支援 〜未来志向型就労サポートの模索〜

特定非営利活動法人Switch

理事・統括ディレクター 小野 彩 香

1、はじめに

特定非営利活動法人Switch（以下、スイッチとする）は、平成二十三年三月に、「心の不調を持つ方の学ぶ・働く」支援をコンセプトに設立されたNPO法人である。就労支援だけでなく、企業のメンタルヘルス、予防教育、若年者のこころの健康の支援にも力を入れている。その活動目的は、一人一人のwellbeingの追求である。ここではwellbeingを「よりよい生活と心の健康」と解釈したい。福祉、労働、医療、教育、様々な法律の枠組みにとらわれず、wellbeingを学ぶ・働くの側面から目指している。

2、就労支援スイッチ・センダイ

まず、基盤づくりとして始めたのが、スイッチ・センダイである。平成二十三年五月より、障害福祉サービス事業として、就労移行支援・自立訓練（生活訓練）を開始し、心の不調で通院している方を専門に、就労支援を行っている。この二年間で、六二名（平成二十五年八月現在）が就職し、定着率も八割を超えている。平成二十四年度の詳細を図1に記す。この数字から見ると、利用開始から早い時期に、本人の希望するやり方で就職活動を始め、結果に結びつけているといえる。

この結果の背景には、IPSS（個別援助型就労支援）という就労支援モデルが一因している。これは、働きたいと希望する人誰でもを対象にし、本人の希望や興味に基づき、一般就労を個別に支援して目指すというものである。スイッチ・センダイの利用受け入れに

平成24年度の詳細 (図1)

- ・新規相談者 115名
- ・新規利用者 54名
- ・就職者 30名

就職者30人の詳細

- 一般就労 83% A型就労 17%
- 病気の開示 57% 非開示 43%
- 就職までの利用期間
 - ・半年未満 57%
 - ・1年未満 37%
 - ・1～2年未満 6%

関して、条件がただ一つあるとすれば、本気で働きたいと切望しているかどうかである。スイッチ・センダイでは、その実現に向けた個別支援と、働き続けるために効果があるプログラム（集団認知行動療法、ストレス対処、キャリア教育等）を実施している。

ここで私たちは、彼らにとつての「就労」とは何か、改めて考えたい。彼らに、なぜ働きたいかを尋ねると、彼らは同じように「調子が良くなったので」という。彼らは、病気がなくなったことで、当たり前と思っていた自分の未来「働いている自分」から、遅れてしまっていると感じていたという。私たちにできることは、その不安と焦りに押しつぶされずに、希望を持ち続けることができるように、伴走者として、隣にいたことである。

3、ユースサポートカレッジ石巻NOTE

では、「遅れをとってしまったと思っている彼ら」の世間的な枠組みはなにか。精神障害者？ニート？引きこもり？やはり、どれもじっくりする枠がないというのが、実感である。

平成二十五年六月より開始した「ユースサポートカレッジ石巻NOTE」は、若者の「学ぶ・働く」を通して心の自立を目指す取り組みである。既存の法律の枠組みを取らずに、法人自主事業として模索している。

就労という概念は、従来の医学モデルから、生活モデルを促進させる中で、大きく支援者の視点を変えた。今、スイッチは、その構造を「未来志向型モデル」のプロセスで挑戦したい。これは、一つの課題解決にむけて複数での対話を通して未来を描いていく。特に異なる立場の複数の人との対話が有効であると考へられている。対話を通して心が動き、わくわくするような希望の感覚こそが、彼らが一歩踏み出す原動力になり、ひいては支援の有効性を上げていくと考へている。

4、おわりに

精神疾患は五大疾病となり、だれでも生きていくうえで身近なものになっている。その専門的知識と対人援助の基本的な関わりは、「関係性」という支援における一番基本の部分に影響する。そのうえで、支援者自身が、疾患以外の世の中の因子に目を向け、同じ土俵で対話を通して問題解決を図っていくこそが、彼らのwellbeingに貢献できると考へている。